

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立東濃実業高等学校

学校番号

40

1 学校教育目標	<p>1 誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備えた創造性に富む実践的な人材を育成する。</p> <p>2 社会や時代の変化に即して、地域と連携しながら、生徒が自主的・主体的に学ぶことができる活力ある学校を目指す。</p> <p>3 将来、産業界の各分野で貢献できるような幅広い教養と専門分野の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生涯を通じて絶えず学習に努めることのできる資質を育てる。</p>
2 現状の分析	<p>○商業科及び生活産業科を併置する専門高校として、特色ある専門教育を実施し成果を上げている。特に、地域と連携した地域貢献活動やボランティア活動、また、挨拶・身だしなみやマナーといった「東実ブランド」が、地域の方々や中学生の間で評価されている。</p> <p>▲新学習指導要領について、職員が理解し令和4年度実施に向けて準備する。また、指導と評価の一体化、考査のさらなる適正化、指導力向上に向けた体制をつくる。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・3学科・10類型が特徴を活かし、それぞれが地域等と連携する取組を進め、生徒にとって探究的な学びの実現ができるようにする。 ・時間外勤務時間80時間を超える勤務の現状を踏まえて、働き方改革を積極的に推進していく。
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門高校として、これまで推進してきた地域連携等の取組をさらに磨き上げ、学科間や類型間で課題を解決するためにつながりを模索し、新たな展開へとつなげる。 ・新学習指導要領の知識を校内で共有し、生徒の知識・資質・能力を高める「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業方法、評価に向けた研究を積極的に行う。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
「生徒指導 ・人権教育」	①全校生徒と全職員による挨拶指導・遅刻防止指導、「身だしなみカード」等による指導を行い、生徒の意識を高めます。	①年間遅刻回数300回以下生徒のマナーモラルに関する調査結果の肯定95%以上。	①挨拶指導、遅刻防止指導、カード指導は継続して取り組んでいる。遅刻は12月末で330件となり目標達成とはいかなかった。マナーやモラルは92%の生徒が肯定感を持っている。	B	○いじめに関するアンケートは担任が集計することで、生徒の様子を把握し、未然防止ができています。年間遅刻回数については見直しする必要があります。 ▲外部講師による交通安全講話は交通安全に対する意識をより高めた。しかし、その後も自転車事故が発生しており、常日頃から注意が必要である。 ▲職員の共通理解を得て、一歩進んだ生徒指導ができるよう学校全体の意識を高めたい。	B
	②「あずさカード」を発行し、生徒一人一人の良さを認め、生徒が自信と誇りを持った学校生活を送れるようにします	②年間で職員一人10枚以上の「あずさカード」の発行。	②12月末までに24名の先生が発行し、そのうち5名が10枚以上発行している。クラス内掲示を行うなど、みんなで認め合う環境が作れている。	B		
	③人権教育を充実し、人間尊重の気風がみなぎる学校づくりを推進します。	③生徒の意識に関するアンケート結果の肯定90%以上、及び生徒の変化	③年間6回のいじめに関する調査アンケート、3回の生活意識調査を実施。9月の調査では100%の生徒がいじめを受けていないと答えた。毎回、調査結果を担任や部顧問などが把握し対応している。	A		
「進路指導」	① 進路意識を早期に確立するためにガイダンス機能を充実させます。	①進学ガイダンス、進路講話の実施回数年間10回以上。	①予定通りに進路講話やガイダンスを実施した。それぞれの学科でもキャリア教育に取り組んだ。	B	○ガイダンス等は定着し、外部講師講話を取り入れるなど充実を図った。 ○生徒の進路希望を達成す	
	② キャリア教育推進のため、校	②全職員での指導により	②学科や学年と連携して、面接指導や小	A		

	内連携と職員研修を充実させ 高校卒業後も見通した計画的 組織的な指導をします。	生徒の進路希望100%を 実現。	論文指導に全職員で取り組むことが できた。就職試験（一次）の内定率も 97.5%と高かった。		ることができた。 ▲大学入試制度の変化に対 応するため、ポートフォ リオを導入したが定着し ていない。 ▲高い進路目標を立て実現 に向け挑戦していくとい う生徒が少ない。
	③ 生徒自ら希望する進路を実 現できるよう、確かな学力や 専門的な知識、技能を身に付 けるための指導を充実します	③ 2年生及び3年前期・後 期に進学補習を実施し、 各生徒の進捗状況を確認。	③各教科と連携して、進学補習を計画的 実施した。個々の希望に対応するた めに個別指導も実施した。	B	
「教務・専門 教育」	①アクティブ・ラーニングを積 極的に取り入れ主体的に学習 活動ができる授業を目指しま す。	①授業評価アンケートで、 授業に「満足している」 80%以上。	①「生徒が主体的に授業を受けられるよ う工夫されている」に対して、そう思 う62.1%、ややそう思う31.3%であり ほぼ達成できたと思われる。	A	○お休ボードとプロジェクトが 各ホールと特別教室5部 屋に設置され、書画カメ ラと電子ペンが使用可能 となりICTを活用した授 業も増えた。より分かり やすい授業が期待できる ▲生徒数の減少もある中 で今まで取り組んできた 専門教育の活動の質を低下 させないよう研究が必要 である。
	②各教科の目標に沿った適切な 課題を提示し家庭学習時間を 有効活用できるよう工夫しま す。	②授業評価アンケートで、 「毎日の家庭学習時間」 1時間以上。	②家庭学習1時間以上実施について、そ う思う11.8%、ややそう思う15.7%。 できていない方の回答は、合わせて 72.8%であり、不十分であった。	C	
	③基礎基本を重視し、定期考査 等で十分な成果が得られるよ う個に応じた指導をします。	③定期考査における成績 不振生徒5%以内。	③素点の欠点取得者は、前期中間考査 6.2%、前期末考査14.0%、後期中間 考査9.9%。5段階評定の成績不振者 は5%以内であった。	B	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月29日

<ul style="list-style-type: none"> ・会議当日は学習成果発表会であったことから感想をいただいた。初めての校内開催であることから、手作り感があり、概ね高い評価をいただいた。発表については、来年度は取組を時系列の形で発表に入れたり、失敗した取組をあえて触れたり、翌年に持ち越す内容を入れるなどの意見・感想を多数いただいたので来年度に活かしていく。 ・地域ボランティアの活動協力や幼児用防災ベストの作成方法の伝授について、手続きを含め協力できる本校の窓口があることを確認した。 ・「本校からの連絡文書等は保護者に届けている(届いている)」については、生徒と保護者のアンケートの数値に差があったので、確実に伝えられる工夫をがほしい。 ・遅刻の回数については、就職する場合に不利になるので気をつけるとよい。 ・「遅刻」や「連絡文書が保護者に届いているか」については、学校の指導というよりは、親の育て方、家庭の教育力の問題ではないか、改めて考えさせられた。 ・進路実現においてミスマッチがおきないように、生徒と保護者、学校の意思疎通を充分に図ってほしい。 ・商業科の方針と重点の「グローバル化」について進めてほしい。 ・地域との関わりについては、「御嵩愛」をもって取り組んでほしい。
--

12 来年度に向けての改善方策案

<ul style="list-style-type: none"> ・21世紀を生き抜くための力を育成するために、基礎的・基本的な知識や技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上を図る。 ・職員間、学校間、地域の方々との連携を高め、地域の力を活用しながら、チーム東実として組織的かつ効果的な対応を行う。 ・各教科において、家庭学習と学校の授業との関係を再検討し、徹底した家庭学習の実施により授業の質が向上するような家庭学習を課すようにし、評価の中での位置づけを明確にする。 ・定期考査の問題について、どの評価の観点について測る問題なのか明確にし、目標とする平均点と実際の得点との差を検証し適切な指導と評価になるようにする。 ・いじめ・不登校等の生徒指導上の諸課題への迅速な対応、教育相談の充実、積極的なICTの活用への対応を推進する。また、あずさカードを積極的に活用することで互いを認め尊重し、思いやりの心が育つようにする。 ・交通安全講話・薬物乱用防止・防犯講話、自転車安全点検などを通じて、保護者を含め、命を大切にする意識の向上を図る。 ・ガイダンス機能の充実のため、進路諸行事の事前指導を充実させる。 ・変化する大学入試制度に対応する。 ・専門的、体験的な学びを活かす進路指導を充実させる。
--